



CMVとは

CMV感染症は、先天性感染や日和見感染など、大きな問題として認識されています。病変部位の生検組織の病理学的検査を行うことが望ましいことは言うまでもありませんが、総合的判断を行うにあたり、生検組織が得られない場合でも、qPCR法は有用な検査法の一つであると言われています。

EBVとは

EBVは、様々な疾患との関連性が報告されており、中には致死的・予後不良な疾患も含まれています。また初感染のみならず再活性化による疾患も少なくありません。有効な治療方法が確立されていないことから、早期対策が切望されています。EBV検査には抗体検査や遺伝子検査があります。その中でもqPCR法は、潜伏感染状態や無症候性再活性化と症候性疾患とを区別するのに有効な検査方法であると言われています。

qPCR 法は、高感度で特異的な反応であることに加え、結果が迅速に得られるという利点があります。低コピー数のウイルス DNA でも検出することができます。検体によっては、潜伏感染状態であっても検出されてしまうことも考慮し、定量的な測定法による評価をすることが重要であると言われています。

日本遺伝子研究所では、qPCR 用の CMV・EBV プライマープローブセット（検量線スタンダード付き）をご提供しております。お求めの際は、日本ジェネティクス株式会社へ製品No.を添えて、ご注文ください。

qPCR 用 CMV PPS セット（製品 No. 6383530）

qPCR 用 EBV PPS セット（製品 No. 6383521）

■LightCycler®480（ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社）、Applied Biosystems リアルタイム PCR 機器に対応しています。

■検量線スタンダード付き。

■最適化反応確認を行い、反応プロトコルを添付しています。

■CMV と EBV の DNA 定量は、同一 PCR プログラムにおける同時 RUN が可能です。

■CMV の DNA 定量に用いられる「major immediate-early protein, IE 領域」には二つの変異のタイプがあり、弊社の qPCR 用プローブは、これに対応した二種のプローブを含んだものとなっています。

■EBV の DNA 定量には、BALF5 遺伝子領域に対応した qPCR 用プローブを採用しております。

⇒詳細は[こちら](#)

* 弊社は本セットに関する製造・販売ライセンスを F. Hoffmann-La Roche Ltd.より受けています。

* 2016 年 10 月受注分より「CMV PPS セット」「EBV PPS セット」の販売元が、日本ジェネティクス株式会社に変更となりました。